

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art



30th
ANNIVERSARY



開館
30周年
記念

江戸の
名プロデューサー

2025
5.30金 - 7.21月祝

蔦屋重三郎と
つたや じゅうざぶろう

浮世絵の

開館30周年記念コレクション展

同時開催

日本美術とあゆむ——若冲、蕭白から新版画まで

浮世絵から
現代美術まで、
コレクションを中心に
名品の数々を

ドドドドドー 2025年、千葉市美術館は
開館30周年
っとお見せします！

開館30周年記念

江戸の名プロデューサー 蔦屋重三郎と浮世絵のキセキ

2025年5月30日(金)～7月21日(月・祝)

2025年の大河ドラマの主人公ともなる蔦屋重三郎は、西村屋与八など老舗の版元たちがしのぎを削る中、新興の版元として出版界に彗星の如く現れ、斬新な作品を次々と世に送り出しました。本展では、蔦屋重三郎が活躍した「浮世絵の黄金期」を中心に、鳥居清長や喜多川歌麿らの美人画、東洲斎写楽による役者絵を一堂に展覧。あわせて初期浮世絵から江戸時代後期までの名品を集め、浮世絵史も総覧します。



喜多川歌麿《当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ》寛政5年(1793) 千葉市美術館蔵／喜多川歌麿《画本虫撰》天明8年(1788) 千葉市美術館蔵

同時開催 開館30周年記念

日本美術とあゆむ ——若冲、蕭白から新版画まで

2025年5月30日(金)～7月21日(月・祝)

開館30周年を記念し、コレクションの中から江戸時代～明治・大正にかけて制作された日本の絵画・版画の名品を展覧します。伊藤若冲・曾我蕭白ら奇想の絵師たちによる絵画、大正時代に興隆した新版画など、各分野を代表する名品を一挙公開し、この30年における千葉市美術館の収集、調査研究、公開活動も紹介します。



伊藤若冲《鸚鵡図》宝暦(1751-64)後期～明和期(1764-72)頃 千葉市美術館蔵／吉田博《光る海 瀬戸内海集》大正15年(1926) 千葉市美術館蔵

開館30周年記念

千葉市美術館と現代美術

2025年8月2日(土)～10月19日(日)

1995年に開館した千葉市美術館での現代美術の歩みを草間彌生、河原温、田中敦子、中西夏之、河口龍夫、小清水漸、菅木志雄、杉本博司、辰野登恵子、吉澤美香ら重要なコレクションを通じて紹介します。市指定文化財である美術館1階のさや堂ホール(旧川崎銀行千葉支店)では、過去の企画展を再現したインスタレーションを行います。



草間彌生《最後の晩餐》1981年 千葉市美術館蔵／「超克するかたち—彫刻と立体」展示風景 1997年 撮影：内田芳孝

開館30周年記念

千葉美術散歩

2025年11月1日(土)～2026年1月8日(木)

千葉市美術館がある「場」をテーマとした展覧会。黎明期の洋画家・堀江正章が指導を行った旧制千葉中学校、ビゴの滞在で知られる稲毛、戦後の千葉アートシーンの拠点となった国松画廊などを関連する作品とともに紹介。千葉市美術館を介して過去と未来が地続きにつながるさまを展望します。



無縁寺心澄《菅谷元三郎の家》昭和前期 千葉市美術館蔵／ジョルジュ・ビゴ《稲毛海岸》明治36年(1903) 千葉市美術館蔵

開館30周年記念

ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン ロックフェラー・コレクション花鳥版画展 北斎、広重を中心に

2026年1月17日(土)～3月1日(日)

【アクセス】

JR千葉駅東口より

- 徒歩約15分
- バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分
- 千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分
- 徒歩約10分
- 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

※地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで) ※シェアサイクルスポットがあります



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
TEL.043-221-2311(代表)
<https://www.ccma-net.jp>



内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

5階常設展示室でも30周年を記念し、美術館のコレクション史と30年間に開催した数々の展覧会を辿る特集展示を行います。

表面：東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》寛政6年(1794) 千葉市美術館蔵

